

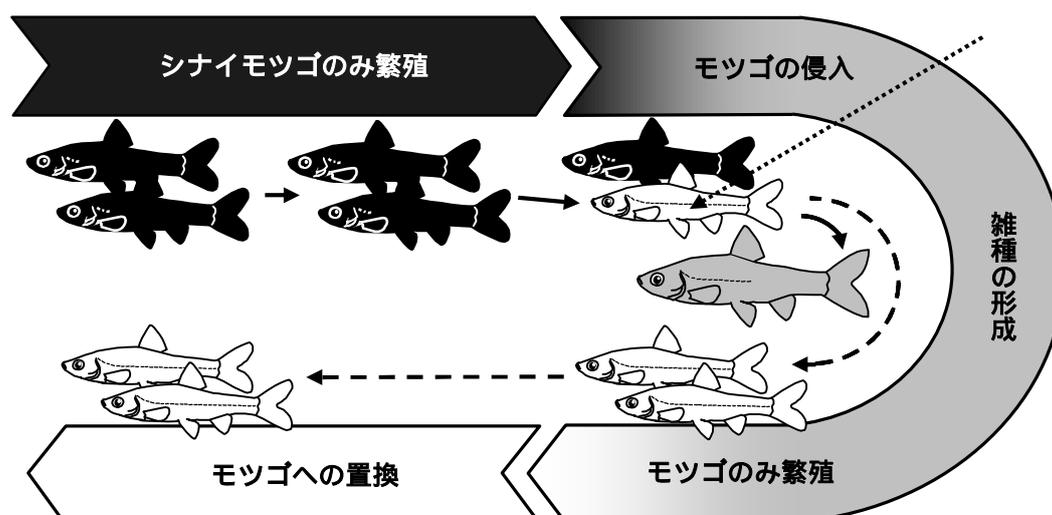
シナイモツゴ生息地へのモツゴの侵入

秋田淡水魚研究会・秋田県立由利高等学校
木村青史 (kimura-seiji@akita-pref.ed.jp)

シナイモツゴ *Pseudorasbora pumila pumila* は、コイ科ヒガイ亜科モツゴ属の小型淡水魚で、日本固有種である。シナイモツゴは、かつては東北地方の大部分及び関東・中部地方の一部に生息していたが、現在では山際の孤立した溜池に不連続に生息する状況に陥っている。減少要因として、溜池の放棄や埋立てによる生息地の減少や、オオクチバスなどの魚食性外来魚による捕食に加え、西日本から導入された近縁種モツゴ *P. parva* との競合が深くかかわっていると考えられている。このような状況のもと、シナイモツゴは環境省により絶滅危惧IA類に指定され保全の必要性が示されている。今回は、シナイモツゴとモツゴの生息地に関する知見が得られたので報告する。

2005年から2007年にかけて秋田県において、県内80カ所の溜池で調査を行い、58カ所の溜池でモツゴ属の生息を確認した。シナイモツゴは、山際に配置し、他の水域と隔離する孤立した溜池に生息する傾向が見られた。これらは個人所有の溜池であることが多く、周囲は樹木に囲まれていた。一方、モツゴは河川水が流入する溜池で多く見られ、県や市町村によって管理されていた。また、シナイモツゴが生息する溜池では在来種が、モツゴが生息する溜池では移入種が優占する傾向が見られた。主成分分析の結果、山際に配置する溜池は移入種の侵入を防いでおり、結果的に在来種を隔離してきたことが示唆された。雑種が出現した溜池はシナイモツゴが生息する溜池に近い環境であったことから、モツゴの生息域拡大が雑種形成に大きく関与していると考えられる。また、溜池への河川からの引水が、モツゴの侵入を助長する可能性が示された。

シナイモツゴからモツゴへの置換



シナイモツゴの生息地にモツゴが侵入すると、2種の間で雑種(モツゴ × シナイモツゴ)が形成されることになる。シナイモツゴは繁殖期間を通じて雑種を形成するために子孫を残すことができないが、モツゴはシナイモツゴよりも繁殖期間が長いので、残された期間を利用して、子孫を残していくことになる。これが、数年経くと、シナイモツゴは寿命でいなくなり、モツゴに置き換わってしまうと考えられている。